

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕事の内容	学童交通擁護ボランティア保険加入事業				
担当部署・課長名	教育総務	課	学務	係	課長名 石川 博隆

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	1 - 1	-
【施策名】 学校教育の充実	総合計画書 (ページ)	31	

予算名	款 10 教育費	項 1 教育総務費	目 3 教育指導費	事業 5 通学路等学校安全対策事業
-----	----------	-----------	-----------	-------------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)
	学童交通ボランティア	→ 学童交通擁護ボランティアの人数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)
	安心して活動ができる	→ ボランティア保険の加入率
	③ そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)
	ボランティア活動に従事している方を対象に、社会福祉協議会のボランティア保険に加入する	→ ボランティア保険に加入した学童交通擁護ボランティアの人数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	705	643	583		
	成果指標	②の数値	%	100	100	100		
	目 標	②の目標値	%	100	100	100	100	100
		目標値設定の考え方	小学校全体において、調査に対し正確に回答する必要がある。					
	活動指標	③の数値	人	705	643	583		

3 経費	事業費(実績)		円	211,500	192,900	174,900	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	211,500	192,900	174,900	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.05	0.05	0.05	
		所要人数(再任用)	人	0.00	0.00	0.00	
		職員人件費(再任用以外)	円	413,350	412,650	412,200	
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
	事業費+人件費	円	624,850	605,550	587,100		

この仕事における市の裁量	市の裁量は大きい
--------------	----------

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。
	平成11年度までは、小学校9校13か所に学童交通擁護員が配置されていたが、平成12年度からは、信号機の設置されていない第七小学校の1か所を除き廃止された。それ以降は、地域のボランティア活動が見守り活動の中心となっており、その活動を後押しするために、本事業を開始したものである。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。
	他府県において、登下校中の児童・生徒が事故に巻き込まれる重大事故が発生したことから、通学路の安全に関心を持つ保護者が増加している。

仕 事 の 内 容	学童交通擁護ボランティア保険加入事業					
担当部署・課長名	教育総務	課	学務	係	課長名	石川 博隆

5 市民等 の 意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について					
	通学時の見守り活動や安全確保については、議会からも一般質問等を通じて、適切な運営等についての要望がなされている。					
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）					
	取り組んだ	取組手法	③事業協力 ⑤補助・助成			
			【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点						
特になし						
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容					
	学校により、学童交通擁護ボランティアの人数に大きなひらきがあり、取り組みの状況についても差が出ている。					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。					
	特になし					
(3)(2)を踏まえた今後の課題						
学校による取り組み状況の差を少なくする。						
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）					
	通学路の安全確保は、重要な問題であり、地域住民の関心も高まっている。今後もボランティアの方々の負担軽減に配慮しつつ、少しでも多くの方の見守りと活動への理解・協力が得られるように、教育委員会だより等を通じてボランティア活動を紹介していく。					
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等					
	機会を捉えて、学童交通擁護ボランティアの活動と効果を広報し、参加人数が少ない学校への声かけ、働きかけを継続して行う。					
(3)改革・改善案による期待成果						
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。						
成果	成果を維持する。				経費	仕事の経費は維持する。